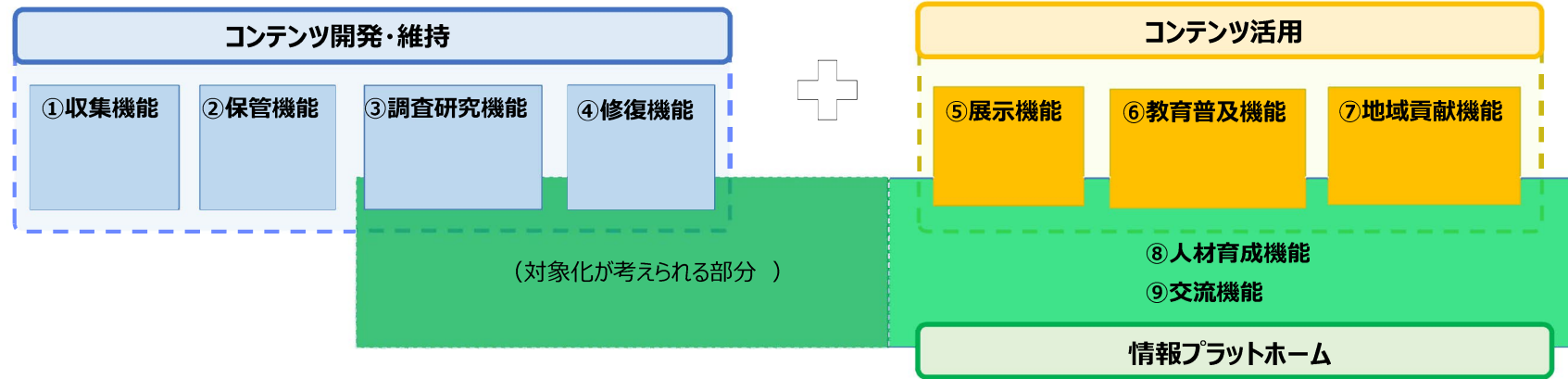


新たなミュージアムに必要と考えられる機能の体系化イメージについて

【資料 1】

- 第 1 回懇談会での意見交換を踏まえ、新たなミュージアムに必要と考えられる機能について再整理を行い、主に「拠点施設」で展開されるミュージアム活動の基盤となる「コンテンツ開発・維持」、「まちなかミュージアム」での展開も含め、収藏品や調査研究の成果などの活用を行う「コンテンツ活用」、「コンテンツ活用」を支え、更なる活用につなげる「情報プラットフォーム」の 3 つに機能を大別し、次のとおり体系化した。（「情報プラットフォーム」は、「③調査研究機能」及び「④修復機能」についても対象化が考えられる。）

■ 新たなミュージアムに必要と考えられる機能の体系化イメージ



機能名	内容	関連する主な事業の想定
①収集機能	川崎の歴史を語る上で欠かせないモノや、川崎市にゆかりのある芸術作家が作成し、市民に広く伝えるべきモノなどの選定と収集を行う。	- 収集方針の運用・見直し - 収集方針に基づく資料・作品購入・寄贈調整
②保管機能	- 収集したモノを次世代につなげられるよう従前の保管手法で保管を行う。 - 併せてデジタル化等を含めた新たな保管手法についても検討し対応を行う。	- 資料・作品等の保管 - コンテンツ活用も視野に入れた保管手法（デジタル化を含む）の検討
③調査研究機能	収集したモノにまつわる内容や背景を調査研究する。	- 川崎市の歴史に関する調査研究 - 川崎市にゆかりのある芸術作家の作品等に関する調査研究
④修復機能	被災した資料に関する修復活動等を実施するとともに、経過などを記録し情報発信を実施する。	- 被災した古文書等の応急処置 - 修復作業ノウハウの継承を見据えた体制の検討 - 修復業務の記録
⑤展示機能	収集、調査研究したモノと市民をつなぎ、誰もが身近なものとして親しめるよう、歴史や文化、アートの魅力や研究成果を発信する。	- 公共施設や民間施設での展示 - 官民連携した展示手法の検討
⑥教育普及機能	川崎市にまつわる歴史や文化、アートを活用し、市民の誰もが文化芸術活動に携わり、親しめる、身近な学びの機会と場を提供する。	体験型ワークショップの実施とアウトリーチ型を主体とした学校連携
⑦地域貢献機能	ミュージアムの活動により、地域の活力の向上や様々な課題の解決をはかり、川崎市の未来の創出に貢献していく。	- 史跡や芸術作家の由来をめぐる街歩きなどの文化観光 - 新たな人材育成による地域課題等への取組
⑧人材育成機能	ミュージアムをともに動かすスタッフや、地域の文化財を継承し、ミュージアムのコンテンツとともに発信・活用する人材と連携する。	- 学芸員や博物館、美術館スタッフなどを志す人たちがミュージアムを支えるボランティアなどの育成 - 情報プラットフォームの構築に向けた検討
⑨交流機能	多様な主体との恒常的な交流のほか、世代や文化を超えた幅広い団体や人々が交流し連携する情報プラットフォームを構築し、積極的なマッチングを図りミュージアムのコンテンツ活用を活性化していく。	“ことラー”（アート・コミュニケータ）の自発的で多彩な活動による新たなコミュニケーションの創出 - 情報プラットフォームの構築に向けた検討 - 登録可能性のある団体に対するアプローチや支援